

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第12号については最新の台風予報を参照。
- 29日から30日にかけて、低気圧が日本海北部から北日本を進み、31日にかけて千島近海を進む。
- 29日から8月2日にかけて、南西諸島付近に高気圧が停滞し、西日本に張り出す。

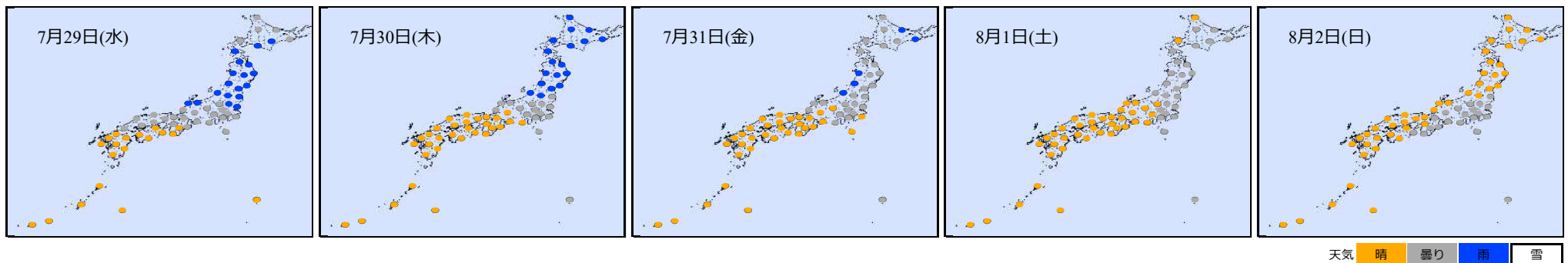
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 29日から31日頃は、低気圧や暖かく湿った空気の影響で北日本から東日本にかけての日本海側では大雨となり、暖かく湿った空気の流れ込みの程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美では、気温が平年よりかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

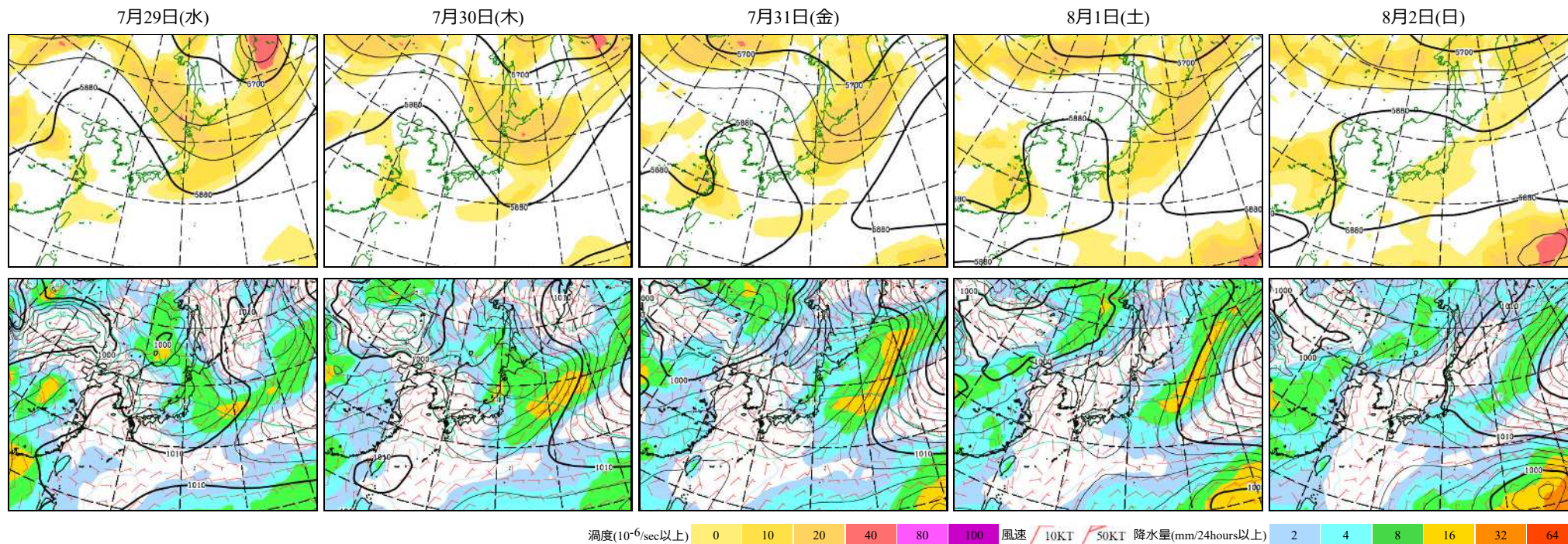
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

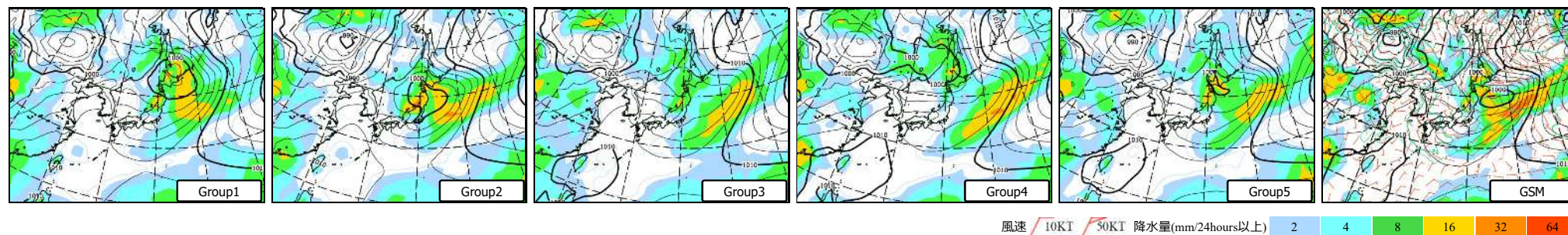


- 北日本と東日本日本海側は、雲が広がりやすく、31日にかけては雨の降る所がある。
- 東日本太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多いが、29日は雨の降る所がある。
- 西日本と沖縄・奄美は、晴れる日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月30日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、日本の東のトラフは29日から8月1日にかけて深くなった。30日以降にオホーツク海を進むトラフは浅くなり、沿海州に進むリッジが強くなった。地上は、31日頃から日本海にのびる気圧の尾根が強まった。
- 日本モデルは30日以降は低気圧が三陸沖から千島近海へ進むが、ECMは低圧部が東北付近に停滞し不明瞭になる。NCEPは30日から1日にかけて低圧部が北海道付近を通過する。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。